

緻密画の森の中に母の溺死体とともに
はいつていくのである。

流れる黄金獅子のたてがみの中に埋まり
ただひたすらに母の溺死体を思うのである
呪殺するための夜ごとの長い祈り

おれは白蛾の鱗粉にまみれながら

臨月の母とともに夜の河床の闇に沈み

暗い眠りの中で輝く森となる

聾啞者の少女の流れる黒髪の中で輝く森
となる

野茨の繁みにおれの幼年幻像を綾取り
のように編み

無花実の樹陰で野ねずみを殺し

おれは祖母の赤痣の胸の窪みに夜ごと眠る
流れいく白い河床を浮き沈むおれは

幼年溺死体

あふれ落ちる雪の中のその幻の花の中の
わが幼年幻像

むなしく陽光は輝き

腐乱する果肉の中の黄金の時間

腐乱する果肉の中の黄金の幼年幻像

しののめの雪路に凍死するわが幼年縊死体
を